

特許紹介

第27巻第2號 昭和16年2月

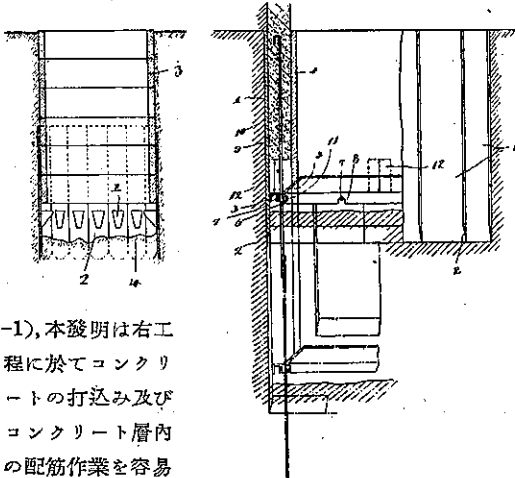
堅坑掘鑿築造方法

(特許第136925號 發明者 木田保造)
(特許權者 木田保太郎)

本發明は 實施上特許第 106601 號の權利を使用するもので、右發明は 堅坑を掘鑿するに當り、内側に突起(1)を有する 棒片(2)を圓形方形等の形狀に配列し、任意の棒片の突起を 押壓して當該棒片を地中に 壓入せしめ其の内部の土砂を 掘鑿し棒片の内側に於て土留擁壁を結構せしめつゝ、棒片を 下降せしめる方法であるが(圖

圖-1. 基本發明

圖-2. 本發明



1),本發明は右工程に於てコンクリートの打込み及びコンクリート層内の配筋作業を容易

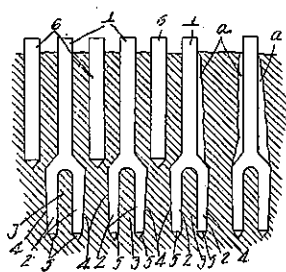
ならしめる爲に棒片の突起(3)を受段とし、之に假棒支持材(5)を適當間隙を保つて支承するやうにし、其の間隙にて堅筋を支持せしめると共に、受段上には填材(12)を假設しコンクリートを打込んだ後、其の填材を脱去すれば次階のコンクリート打込用の注入口を形成するやうに改良したものである(圖-2)。

基礎杭打方法

(特許第139109號 發明者(特許權者)
神明豊次郎)

圖-3に見る如く、先端を分岐せしめ其の分岐部の中間に適當間隔を設けた杭(1)を配列し、其の中間に分岐部なき短杭(6)を打込む方法である。此の方法に依れば分岐杭に依り形成せられた間隙を短杭により充填し得るが故に、杭相互間の地質を緻密ならしめる特徴がある。

圖-3.

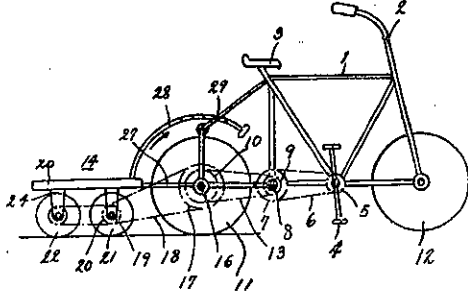


建築物床面塗裝用ローラー装置

(特許第139511號 發明者(特許權者)
加藤基太郎)

建築物床面の仕上を簡便且つ平滑ならしめ得るやうに考案を施した装置で、車架(1)の前後に比較的輕量の主ローラー(11, 12)を備へ、且車架上より手働又は足踏により駆動し得る回轉傳導装置を備へ、又主ローラーの一方の外方には其のローラーの回轉周速度よりも大なる回轉周速度を以て回轉する小ローラー(21, 22)を

圖-4.



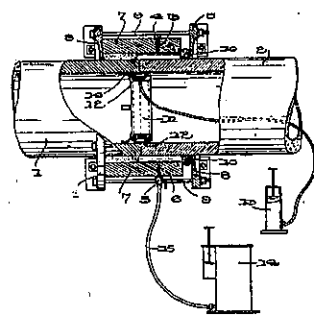
備へしめたものである(圖-4)。主ローラーに依り装置は床面任意の位置に移動して輾壓を加へ、又小ローラーのスリップに依り緩作用を行ふのである。

ヒューム管の接合方法

(特許第139718號 發明者 村松金蔵)
(特許權者 豊成炭礦株式会社)

ヒューム管の接合を確實且つ簡易に行ひ得るやう改良を施したものである。圖-5に見る如く、兩ヒューム管(1)(2)の接目の内側に鐵製チューブホルダー(11)内に支承せるゴムチューブを當て、チューブ内に壓力を加へることに依り接目の内側を密閉せしめ、又他方に於て

圖-5.



ヒューム管の接目の外側に配設せるカラー(7)を鐵製輪(8)ゴム輪(10)及びボルト(9)等にて締付けてカラー(7)とヒューム管との間の間隙を密封せしめ、此の空隙内にセメントモルタル又はアスファルトモルタル等を充填せしめる方法である。

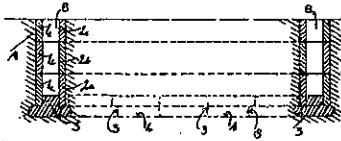
ガスタンク用コンクリート製水封槽築造方法

(特許第140136號 發明者 特許權者)
小川正夫

最初の大小2組(1a)(1b)のコンクリート製短圓筒

を所定地上に同心圓上に設置し、此の環狀間隙（ガスタ
 ンの側壁が自由に昇降し得るに足る間隙）の下底の地
 面を均等に掘鑿し、兩者の漸次沈下するに従ひ掘鑿を進
 め、次に前記と同大の大小 2 組の短圓筒 (2a)(2b) を第
 1 のものゝ上に夫々現場打上式に繼足し前記同様に掘
 鑿を進め、斯くて所要の深さに達した時抜掘式に適宜の
 間隔を以て地底數個所に擴大せる窩狀掘鑿を行ひ一定
 の高さ迄コンクリートを充填し凝固後其の殘部をも同
 様に掘鑿充填し以て 1 連の水封底 (3) を構成せしめる
 方法である (圖-6)。

圖-6.

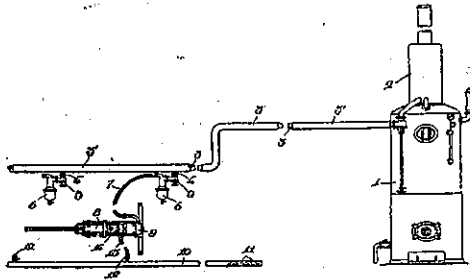


此の方法に依れば、土壤の掘鑿量が少量にて済み得る
 特長がある。

(附) 登録實用新案
 蒸氣式鑿岩裝置

(第 20971 號 公告 15 年 第 8844 號)
 (實用新案權者 森 田 隆)

圖-7.



簡単な坑外設置の蒸氣罐 (1) を使用し、之に依り發生
 する蒸氣を以て鑿岩機 (8) を作働せしめるやうにした
 もので可撓管 (13) を介して排氣管 (10) に連結せしめ
 て排氣を放出せしめて坑内換氣に役立たしめたもの (圖
 -7)。

蒸氣式製岩機に於ける注水裝置

(第 290975 號 公告 15 年 第 8845 號)
 (實用新案權者 朴 龍)

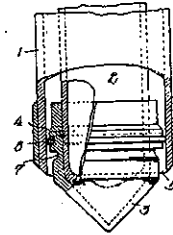
蒸氣の 1 部を使用し蒸氣タービンを作働し之と直結
 のポンプを回轉せしめて鑿岩機へ給水するやうにした
 もの。

コンクリート杭製造裝置

(第 29307 號 公告 15 年 第 1000 號)
 (實用新案權者 東洋コンプレツソル株式會社)

従來のコンクリート杭製造裝置では、尖脊を徒らに地
 下に埋没せしめてゐた不經濟に鑑み、之を次の如く改良
 して其の缺點を除去したも。即ち内管 (2) の下端に
 尖脊 (3) を嵌め、尖脊の外周に外管 (1) に接近して泥

圖-8.



土の浸入を防ぐべき阻止帶 (4) 及び最初に浸入せんと
 する泥土の壓力方向を 偏倚せしむべき環狀凹溝 (7) を
 設けたものである (圖-8)。